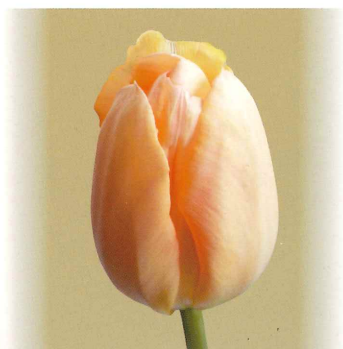
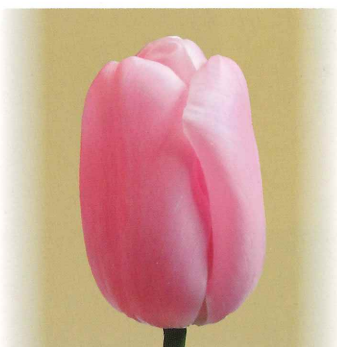
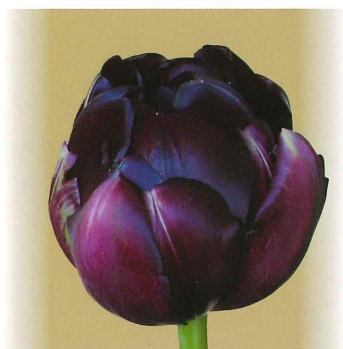
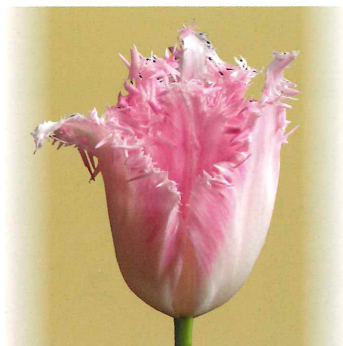


チューリップ

四季だより



「チューリップと私」

室谷 優二

三十年以上も園芸に携わっていると、知らぬ間に、いくつもの植物と浅からぬ因縁で結ばれてしまうようです。チューリップもそんな植物の一つで、思い返すと、チューリップに助けられたことが一度ならずありました。

まず最初に思い浮かぶのは、大学を卒業した翌年のことです。その前年の冬から、オランダの園芸会社で研修をはじめていたのですが、暗くて陰鬱なオランダの冬と人間関係に押しつぶされそうになり、一年どころか半年もたない状況でした。しかし、春になり地平の先まで埋めつくすほどのチューリップが、一斉に咲きはじめるのを目にしたとき、それまでの嫌な思いが一気に吹き飛ばされてしまいました。それから、チューリップの花が咲き終わるまでの間、キューケンホフ公園を訪れたり、チューリップ畑の続くリッセやハーレムの間を走るバスや電車に乗った楽しさは、今でも忘れることができ

ません。それから、チューリップの咲くヨーロッパの春を見続けていたいという思いで、オランダやドイツで四度

の春を過ごすことになり、そんな長期の研修生活で身につけた園芸技術や知識のおかげで、これまで園芸家としてやってこれたようなものです。

次に思い浮かぶのは、今から十五年近く昔、まだガーデニングなんて言葉が全く知られていない頃のことです。植物園の温室や花壇管理をやっていたのですが、従来の展示や植栽にあきたらず、園芸デザインをやっていた友人と二人でさまざまなアイデアを考えたり、海外の公園や住宅地を見て歩いていました。そんなとき、イギリスの湖水地方^{*}で、花壇はもろろんナチュラルな庭やコンテナ、ハンギングバスケットなどでさまざまな利用されているチューリップを見ることになりました。

もちろん、花色や花形が豊富でよい球根さえ植えつけば、手軽に花を楽しむことのできるチューリップは、日本でも春の花壇やコンテナガーデンには欠かせない花として、さまざまなに利用されていました。しかし、チューリップの花を楽しむということがメインで、植物園や公園などでは、どれほどの数の球根を植えているのか、何種類の球根を植えて

いるのかなど、球根の量や品種の数をPRすることが一般的でした。一般の家庭では、鉢植えにしたり、プランターにまとめて植えつけて楽しまれることが多く、同じ花色のものを等間隔でというのが基本でした。

そんな時代に、公園や公共の建物周囲の花壇などで、赤やピンク、紫あるいは、赤やオレンジ、黄色など同系色とはいえ、混色にして配色が楽しまれているのはかなり新鮮な印象をうけました。さらに、ピンクの

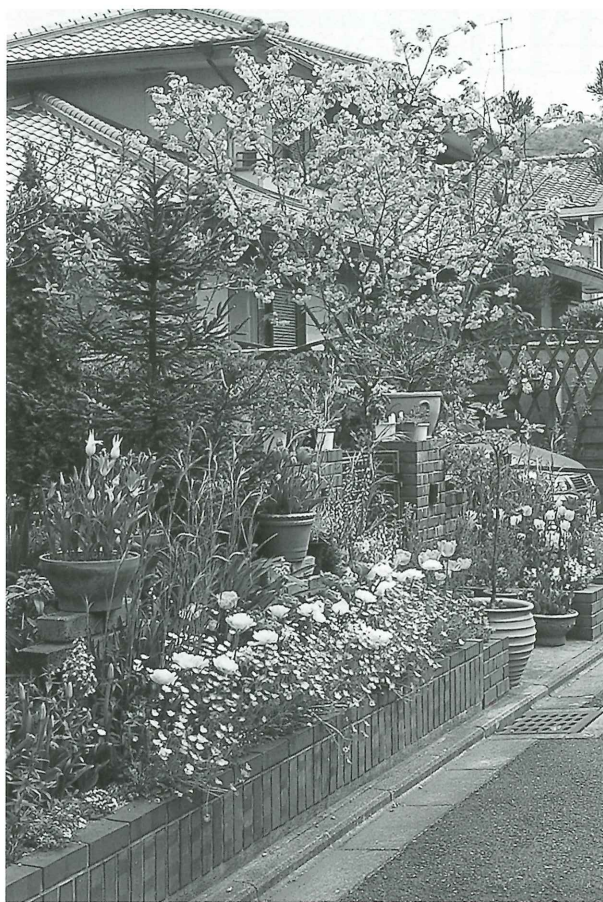


▲シシングハーストキャッスルガーデン（イギリス） ライムウォークの春風景

チューリップにブルーのワスレナグサを組み合わせたロマンチックな配色や黄色のウォールフラワーに黒いチューリップを組み合わせたコントラストの強い配色など、チューリップの豊富な花色と他の草花の花色とを上手に組み合わせ、さまざまな配色を作り出しているのには驚きの連続で、さすがガーデニングの先進国とただただ感心するばかりの毎日でした。そして何より驚いたのは、チューリップがナチュラルガーデンのアクセントカラーとして、あるいはベースカラーとして利用されていることでした。花色を優先させてデザインを考えていくこと、配色によって色々なイメージを表現できることなど、いまではごく当たり前のこ



▲イギリス・湖水地方の道路沿いの春花壇風景



▲我が家の庭・ボーダー花壇の春風景

とを教えられたのは、そのときに見たチューリップの花たちの多様な使われ方からでした。そのことが、その後のガーデニングブームの中で、私自身のガーデニングに対する考え方やスタイルにかなり大きく影響を及ぼしています。

そんなチューリップは、我が家でも常に春の庭の主役で、チューリップの配色を決めることから、一年の庭のプランづくりがはじまります。今年は、紫系のチューリップを中心に、三百球余りを植えました。が、「夢の紫」を植えられなかったのが心残りです。

※湖水地方―英国・イングランド北西部に位置する地域。

【略歴】

むろたに ゆうじ



一九四八年 京都府に生まれる
一九七二年 明治大学農学部卒業
一九七二年～七四年 オランダ・アルスメーア市のOor・Loo社において、園芸植物の栽培技術を研修。

一九七四年～七六年 ドイツ・ハノーバー市「Boye社」において技術者として勤務。

一九七七年～七八年 兵庫県フラワーセンターに勤務。

一九七八年～八三年 服部緑地サボテン公園に勤務。

一九八三年～二〇〇一年 財団法人尼崎緑化協会（尼崎市都市緑化植物園・緑の相談所）に勤務。

二〇〇一年四月 むろたに園芸研究所開設。

現在

むろたに園芸研究所 代表、奈良県立農業大学校非常勤講師、日本ベゴニア協会理事、日本植物園協会会員、大阪府まちの緑花ボランティアリーダー養成講座専任講師、豊中市まちづくりアドバイザー、NHK趣味の園芸講師、「園芸ガイド」フラワーガーデンコンテスト審査員

人気のチューリップ

BEST 10

「チューリップ王国とやま in 大田花き2006」アンケート結果より

今年二月六日に、東京の国内最大の花き市場である大田花き市場で富山県のチューリップをPRするイベント「チューリップ王国とやま in 大田花き2006」が開催されました。

チューリップ切花産地と、県や農協関係機関が連携した「チューリップ王国とやま実行委員会」によるこのイベントで、多彩な74品種を展示するとともに、昨年に引き続きその人気投票が行われました。その結果は、日本で人気の高い淡いピンク色の品種をはじめ優しい色合いのチ

ューリップや、形や色等個性的なものに人気が集まり、昨年の結果とは異なるものとなりました。近年、チューリップにおいても、多様な形や色を持つ個性的な品種が求められてきているようです。



1 ハウステンボス



2 マドンナ



2 アンジェリケ

BEST 10

1位 ハウステンボス

2位 マドンナ
アンジェリケ

4位 ブラックパーロット

5位 アプリコットビューティー
夜の帝王
ピンクダイヤモンド

8位 春

9位 ヨニナ
バラードホワイト
アルバートヘイン
スプリンググリーン



4 ブラックパーロット



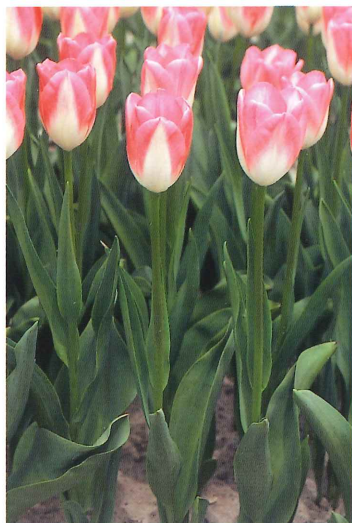
5 ピンクダイヤモンド



5 アプリコットビューティー



5 夜の帝王



初桜

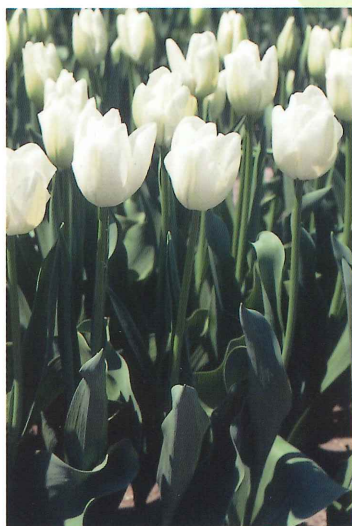
平成十六年八月にオランダの品種登録に申請していた富山県育成品種、「夢の紫」(農林二十号)が、今年二月に正式に登録されました。これまでに富山県が育成したチューリップがオランダで品種登録されたのは、「夢の紫」で四品種めとなります。

「夢の紫」は濃い赤紫色のユリ咲き品種で、ユリ咲きの花型を持つ紫色のチューリップは大変珍しいことから、世界一の球根生産を誇るオランダでも希少価値が高く、早期の生産販売が要望されています。



夢の紫

富山生まれの 「夢の紫」世界へ



白雲

一方、平成十六年これに先立って登録を終えた「初桜」(農林十六号)、「白雲」(農林十七号)は、今年からオランダで本格的に販売が開始され、今年約五十四万球の生産が見込まれています。また、平成三年に登録された「黄小町」(農林十三号)は、これまでに約九百六十万球が生産されています。

今後ますます、富山生まれの優れたチューリップが世界へ発信されることでしょう。



黄小町



Tulip History

チューリップの歴史

オランダ編

パート4

～歴史的球根の宝庫「球根栽培博物館」(オランダ球根博物館発行)より～

●新しい精神

一九八八年に、大学や他の研究機関が共同でオランダ植物コレクション協会(一九九八年以降は国際植物コレクション協会と改名)が設立されました。一九七〇年代から八〇年代にかけて、相次いでこのような組織再編が行われたことによって、多数の重要な植物コレクションが紛失の危機にさらされ、球根栽培博物館は研究機関ではありませんでしたが、その新しい協会に加入するよう求められました。十数年にわたり専門的な知識のもと球根保存に力を注いで

1988 > 2003

『ついに独自の博物館へ』

きた博物館にとって、協会に加入するということは特例ではあったものの価値のあることでした。

二〇〇三年に球根栽培博物館を訪れた協会の視察団は、そこでの保存方法を大いに賞讃します。ピーター・ボスマン氏とその仲間がこれまで長年にわたり保存に力を注いできた努力を認め、改めてその業績を称えました。

球根栽培博物館の品種保存園は、同種の植物園の中でも、珍しくかつ多様な歴史的球根コレクションを保有する唯一の保存園であり、年を経

るごとにそれを真似た植物園が増加しています。公園長は「球根の保存は不安定で常に注意を要する。毎年完全なコレクションであり続けるためには、庭園に手をかける以上に、綿密な検査や管理が必要だ。」と述べています。

●変化

博物館では役員会が度々開かれ、その活動をもつと貿易中心とするか、一般大衆向けにするか、或いは両立させるかについて、白熱した討論が行われました。一九八〇年代後半までは、主に意見交換を行っていたのは同業者や科学的な研究機関だけで、いわゆる「球根時代」にコレクションをただ見るだけであった一般大衆は重要視していませんでした。

フロリアードやウエストフリースフロラといったフラワースhowがいくつも開催されるようになると、一般大衆にも変化がおこり、その大衆が注目することは新しい販路を見出すきっかけとなります。

大衆に有益な情報を提供することがネバーズイ協会の本来の目標であり、役員達の活発な活動が、この変化をもたらす原動力となったのです。

●別の動き

一九九〇年にネバーズイ協会は、その名称をより一般的に明るいイメ

ージを喚起させるものとするために、「球根栽培協会」に変更しました。ネバーズイ協会の本来の仕事であった球根コレクションの管理は引き続き行いましたが、残念なことに、栽培園が新しい場所に移設された翌年、スタッフ不足と資金不足を理由に、ピーター・ボスマン氏のもう一つの事業である博物館の閉鎖を余儀なくされたのでした。その所蔵品は、栽培園とアルクマールにある公の史料館とで分配されましたが、栽培道具等の大部分は地元の球根栽培農家の倉庫などに保管されてしまいました。

●スポンサーと出資

オランダ球根協同組合(CNB)や園芸作物に関する政府機関、国際花卉球根センター等の取引業者が、球根栽培協会に多額の投資を行い、これによって保存園の入り口には装飾的な門が設置され、敷地はそのコレクションが盗まれたり壊されたりしないよう頑丈なフェンスで囲まれました。入り口の近くには宿根草と球根で美しく彩られた花壇が作られ、来園者が個人の庭づくりの参考となるモデルガーデンとして役立っています。

また、保存園の「サマーハウス」には入場券の他、書籍やハガキ、最新の球根セット、時にはラップスイセ

ンやチューリップの花鉢を買うことが出来ます。球根や花鉢の一部は球根栽培協会のコレクションの中から、その他のものは地元の球根栽培業者からの寄附で成り立っています。

●『球根置き場』

『おしゃべりコーナー』

一九二〇年代に建てられた球根保管庫は、増築されたことによつて、夏期には確実な球根の保管がなされ、春には観光客への接客室に利用されています。倉庫の中には、おしゃべりコーナーと呼ばれる書籍の閲覧もできる喫茶コーナーが設置されています。

また、全品種の三分の二以上をカラーで見ることが出来る大きな壁絵が展示に加わり、雨の日でも充分楽しめる作りとなっています。球根栽培協会の案内役クリス・バン・キーン氏は「球根保存園は年に五、六週間しか開いていないが、毎週異なる品種が咲くから、毎週でも見に来て欲しい。普通の観光客はすぐに全部を見た気になるが、近づいてよく見ると多種多様な花の形、色、そしてその組み合わせパターンに気付くだろう。案内係に声をかければその逸話や球根の知識、耳よりな情報を快く話してくれるだろう。」と話しています。

● 拡張

球根栽培協会は長い間、敷地不足に悩んでいましたが、理事会と教会区民との特別区画に関する賃借が合意に達し、ついに拡張が可能となり、長年拡張を希望していた協会の敷地は一・五ヘクタール増加し、それまでの二倍の広さとなりました。

ヤーブニッセン会長は「これで輪作が可能になった。球根は病害の影響を受けにくいので、殺虫剤をあまじく使わなくてよい。これで、これまでに多くの品種を栽培できるし、

珍しい品種を育成している栽培家に出会えばそれをコレクションに加えることもできる。私たちのねらいは、歴史的な品種を保存することだけではなく、新品種が消滅することを防止することでもある。」と述べています。

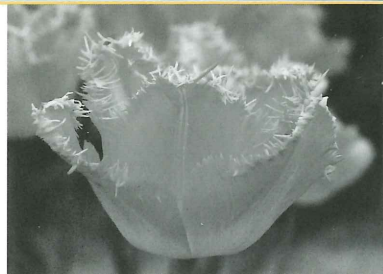
● 七十五周年

見本コレクション(当時はスイセンとチューリップの両品種)の管理人のうち、六十五歳のカレル・ヴァン・デル・ウィーク氏が自宅で亡くなったことで球根栽培保存園七十五周年は静かに行われました。

同じ頃、イラク戦争や流行病SARS、景気後退が、とりわけアメリカ人や日本人観光客による海外への花・球根花めぐりツアーにマイナス影響を与えました。球根貿易における近年の発展も楽観視できるものではありません。様々な球根植物の無制限の拡大と不景気がからみ、価格

の下落を引き起こし、多数の農家に経済的悪影響を及ぼす結果となりました。

しかし、オランダ人の球根に対するゆるぎない熱意はマイナスマードを一掃します。その年の開園初日、四月十九日に千五百人の来場者があつたことは快挙でした。歴史的な品種を選ぶ人々が倍増したのに加え、球根栽培保存園の理事会は以前より積極的にオランダ植物コレクション協会の活動に参加しました。現在、理事会役員のヨープゾーンベルド氏がこの協会の常任委員です。長い年月を経て協会区民側との同意が得られ、面積を徐々に拡大し、何年間も同じ場所での輪作を繰り返しながらそのコレクションを保持し続けています。



チューリップ四季彩館
からのお知らせ

季節展示

『 花の歳時記－初夏 early summer 』

「万華鏡」をイメージした、鏡のオブジェがゆっくりと回転し、花や木々を映し出します。窓から差し込むひかり、鏡に映るもう一つの世界。爽やかな初夏の花々をお楽しみください。

と き 5/11(木)～6/13(火)

ところ チューリップ四季彩館 テラス



チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP GALLERY

2006年5月発行
(財) 砺波市花と緑の財団 〒939-1381 富山県砺波市中村100-1
TEL 0763-33-7716 FAX 0763-33-0090
URL <http://www.tulipfair.or.jp>